

堺行基の会 会報

第39号 平成26年4月30日

平成25年11月17日史跡巡りの記録

奈良路の長弓寺・靈山寺・藤の木古墳・

法隆寺を訪ねて

南山 明弘

当日は秋晴れの天候に恵まれ、爽やかな一日でした。まずバスの中で吉田会

長の挨拶と、本日のコースの案内について下垣内さんのレクチャーを受けました。

最初の訪問先は、国宝の本堂がある長弓寺（生駒市上町・真言律宗）です。

あいにく住職は檀家の法事と重なったので説明はなく、本堂にも入れず外観のみの見学でした。

本尊 十一面観音（重文・平安末）

文化財 本堂（国宝・鎌倉中期）、

厨子（重文・鎌倉期）

沿革は①「長弓寺縁起」（寺蔵）に、天

発行 堺 行基の会

事務所 堺市毛穴町462-8

吉田方

TEL 072-271-5972

平年間に聖武天皇の勅願により行基が開創したという。②また参議から内大臣に登った藤原吉継が天平年間に創立したともいう。

中世の寺領は七〇〇石あったが、天正五年（一五七七）織田信長に没収されたという。

四つの院があり、輪番で本堂を守っている。

文化財 本堂は五間に六間、入母屋造りの椀皮葺きで、棟木に弘安二年（一二八二）の墨書がある。和様に唐様がまじり鎌倉中期の典型の遺構として国宝に指定。本堂内の黒厨子は重文（鎌倉中期）、厨子内の十一面観音像は平安末の一木造りで重文。

長弓寺をでてまもなく靈山寺（奈良市中町・靈山寺真言宗）に到着した。寺は

富雄川に面し、木々が広がる境内の正面に赤い鳥居がでんと構える。ここは神社かと思いきや、神仏習合の有様を今に伝えている。空海が竜王を感得し、同じ水の神である弁財天が奥の院にまつられた伝承に由来する。

寺の縁起によれば、七世紀後半の飛鳥時代に、山中に居を構えた右大臣小野富人が薬師如来を信心し、薬草湯屋を建て人々の病を癒したことに始るとされる。

奈良時代に入ると、阿倍内親王（のちの孝謙天皇）の病を心配した父の聖武天皇が「この湯屋の薬師如来に祈れ」という夢のお告げを聞き、行基を祈禱に向かわせた。内親王の健康が回復したことから寺の造営がはじまり、インドから来た僧・菩提僊那が靈山寺と名付けたと伝える。その伝承を示すように境内に薬師湯がある。

鎌倉時代に、北条時頼の帰依が厚く多くの寺領を下付し、また豊臣秀吉・徳川家康も寺領を寄進した。明治維新の廃仏

毀積により伽藍の規模半減し仏像焼却の災難に遭うも、昭和平成時代に到り再度興隆を果たした。

広大な敷地を生かして、レストラン・薬師湯・バラ庭園・ゴルフ練習場・霊園などを運営している。

寺内のレストラン結構な昼食をいただいた後、バスを法隆寺の駐車場に止め、そこから斑鳩文化財センター・藤の木古墳（斑鳩町）へ徒歩で向かった。

センター内は藤の木古墳から出土した副葬品レプリカの展示や、映像ホールで古墳や斑鳩の歴史と文化について分かりやすく解説している。

六世紀後半の藤の木古墳や烏土塚古墳などでは、すでに生産や使用がほとんど行われない埴輪が使用されていた。

藤の木古墳には銅鏡の多葬や埴輪祭祀の採用といった復古的な様相がみられることから、伝統的な大和王権の葬送儀礼を意識的に取り入れていると理解することもできるという。

日本の古墳文化を考える上でも、藤の木古墳は重要な古墳であると結びつけている。

センターを出てすぐ近くにある史跡藤の木古墳へと足を運び、円墳の全貌と横穴式石室・家形石棺を観察した。

藤の木古墳から斑鳩町内を歩いて東大門より法隆寺に入った。

法隆寺（斑鳩町・聖徳宗）は飛鳥時代の姿を現代に伝える世界最古の木造建築として広く知られる。創建の由来は、金堂の東の間に安置する薬師如来像の光背銘や、法隆寺伽藍縁起の縁起文によって知ることができると、用明天皇が自らの病気の平癒を祈って寺と仏像を造ることを誓願したが、その実現を見ないままに崩御した。そこでできさきの推古天皇と聖徳太子が故天皇の遺願を継いで、推古天皇十五年（六〇七）に寺とその本尊薬師如来像を造ったのが、この法隆寺（斑鳩寺）であると伝えている。

現在、法隆寺は塔と金堂を中心とする西院伽藍と夢殿を中心とする東院とに分かれている。金堂には釈迦三尊・薬師如来・四天王、夢殿には救世観音・百済観音などの諸仏像、玉虫厨子・橘夫人厨子など各時代にわたる遺宝が多い。

広さ十八万七千平方メートルの境内には、飛鳥時代を始めとする各時代の建築物が軒を連ね、たくさん宝物類が伝来している。国宝・重文に指定されたものだけでも約一九〇件二三〇〇余点に及んでいる。

このように法隆寺は聖徳太子が建立した寺院として、一四〇〇年に及ぶがやかしい伝統を誇り、一九九三年にはユネスコの世界遺産のリストに登録されるなど、世界的な仏教文化の宝庫として人々の注目を集めている。

行楽日和であったがバスが三国ヶ丘駅に着くと雨が降り出した。行基さんが涙で帰着の無事を喜んでくれたのかと思えました。

11月17日史跡巡り参加者

池田公治・宇野健二他3・織田宗輔・川口 勝・操田邦男・小室孝子・呉 時宗他1・佐藤盛夫・下垣内信夫・仙波恒民・千川道春他1・辻村昭三・竹安ゆり子・鳥居俊作・中野彦英・中野博之・西井幹雄・畑中雄一・東野信吾・松井郁子・三好理化夫・宮本 和・南山明弘・吉田靖雄・若井敏明・和田慶三・森 明彦



霊山寺境内・行基像



長弓寺本堂前にて



法隆寺中門前にて



靈山寺レストラン



靈山寺レストラン



靈山寺レストラン



二〇一三年十月廿日公開講演会の記録

堺市民会館小ホールでの講演会はいいにくの雨模様で、開会時刻にはドシャ降りになってしまい、参加者は少なく残念でした。しかし質問が多く出され熱心な雰囲気でした。講演内容は多岐にわたるが、ここでは主旨のみを掲載した。

吉田靖雄「行基と文殊信仰」（要旨）

1 生身の菩薩僧たち

『続日本紀』は行基没時に彼の伝記を記し、「和尚の靈異神験はいちじるしく、時の人は行基菩薩と呼んだ」とある。行基は生存中に菩薩と尊称されていたことが分る。

行基の時代に菩薩と称された僧は他にもいた。今の和歌山県東部の一帯で教化に当たった興福寺の永興や、今の滋賀県野洲市・守山市・甲賀町の一帯で教化に当たった金爾らも菩薩と呼ばれていた。彼らの事績として共通するのは①活動範囲が一郡（永興）から数郡（金爾）にわたり、

畿内五カ国（行基）にまでわたる例もあった。②民衆教化は、弟子僧らとの共同行為であった。③その実態は、祈祷薬湯による病氣治療（永興）や山林修行によって獲得した呪験力による苦悩苦痛の除去（金爾）があり、さらに交通・農業の施設の造営にまで及ぶ例（行基）があった。

2 行基は文殊菩薩の変化

平安初期成立の『日本靈異記』は、行基大徳は文殊菩薩の変化であり化身の聖であるという。行基は生存中に菩薩と尊称されていたが、九世紀はじめには文殊菩薩の変化であると認識されるようになった。行基の菩薩行は多岐にわたるが、当時の世人の行基に対する最大の関心は、恐らく貧窮する民衆への食物の施給にあった。九か所の布施屋や崑陽施院（伊丹市）・布施院と同尼院（京都市伏見区）では、食物の施給が行われていたはずである。それに文殊菩薩が僧形の菩薩であったこと、その誓願は貧窮苦悩する人々への食物施給であったことは、行基の場合と軌を一にしていた。こうした類似点から行

3 文殊会と行基信仰

基は文殊菩薩の変化とされたのである。八二〇年代、勤操と泰善の二人が畿内で貧者に食物を供与する文殊会を始めた。疫病と旱害が頻発し食物を求める貧民が大量に発生していた。このころ行基は文殊菩薩の変化なりと認識されるようになっていたので、貧民や乞食の僧に布施することは行基Ⅱ文殊菩薩を供養することにつながるとの認識に変わっていった。かくして行基信仰は拡大深化していった。



森 明彦「行基と河内の知識」（要旨）

1 皇太子の死没と聖武・光明子の救済の願い
神龜五年（七二八）、聖武天皇・光明子の皇太子が死没した。皇太子の死没は天皇家に大きな影響を与えた。死者は黄泉国へ行き腐敗した姿をさらすという神祇の世界観を採るのか、功德を積み浄土での永遠の生を楽しむむという仏教的世界観を採るのか、僧侶による説法は子供を失った二人に強烈な衝撃を与えたであろう。

従来、国家が仏教に期待したのは、仏教的呪力により外敵・内乱・災害から国家を護持することであった。しかし、聖武と光明子が仏教に個人的な救済を願うことによって情況は大きく変化した。行基への政治的対応も変化した。

2 行基の運動と思想

行基は、架橋・布施屋設置・ため池造成等の土木事業など、利他行による善行を宗教活動として位置づけた。功德を積み利益を受けるとする説法は、かつて罪

福を説き民を妖惑すると非難された当時のものと何等変わるところはなかった。

つまり、宗教家としての行基の運動は、表面的には土木事業を採用することで大きく変化したようにみえるが、説く内容は一貫していた。行基にとっては宗教的転向や続世間への迎合といった意識は一切無かったと考えるべきであろう。

3 河内の萬福法師と知識

天平勝宝六年（七五四）に書写された大般若経の願文によると、河内中部にいた萬福法師は知識を結び、天平十一年（七三九）から十二年の冬にかけて河内大橋の造営を志したが、志半ばにして終った（死没）とある。

天平十二年の春二月、聖武天皇は河内知識寺で盧舎那仏を拝し、知識による大仏造立を誓願した。この時期、まさに萬福法師が知識と共に河内大橋架橋に取り組んでいた。

河東の化主と仰がれた萬福法師は、知識寺で聖武天皇に面会し、知識による造寺造仏の意義を説いたのでないだろうか。

そして天皇は大仏造営の勸進を萬福に委ねようとしたのではないだろうか。その萬福が死没したため、萬福に代わる者として立てられたのが行基であり、そのために作られたのが「天平十三記」という行基の活動目録であったのではないだろうか。



講師 森



根本誠二「行基伝承を歩く」(要旨)

1 行基伝承寺院は全国に分布

行基が寺院を建立しましたその本尊を造ったという行基伝承寺院は、北は岩手県から南は大分・熊本の両県に及び、その総数は約一千か寺にのぼる。近畿地方に多く分布している事は、四十九院など行基の足跡を記す寺院が多いことから肯ける。また、全国的に西国・坂東・四国八十八札所などにも多くの行基伝承寺院が存在する。

2 記憶としての行基像行基絵像

行基伝承が存在することは、人々の行基への追慕(信仰)の念が今日に至るまで根強いことを示す。その事例の一つが、「行基菩薩像」(表1)の伝存である。行基像は、行基千年忌など遠忌を契機として、行基草創と伝える三昧墓所の寺院に所在する「行基菩薩供養塔」と相まって、近畿の各地で造像された。その多くは、伊丹市の昆陽寺のように行

基堂として独立堂宇に安置されている。彫像と同様に行基の絵像も、堺市の光明院(神鳳寺伝来)の例のように数多く伝存している。

3 東国の行基と観音信仰

東国・関東地方には近畿地方について、行基伝承寺院が存在する。坂東三十三観音札所・秩父三十四観音札所と行基との関係は深い。江戸時代中期成立の『坂東三十三所観音霊場記』は、「三十三所ノ中、特二行基大士ノ事跡多シ」と記す。そして行基は凡人の理解を超えた「地上ノ権者」、つまり現世の人々を救ってやまない観音の変化であるという。

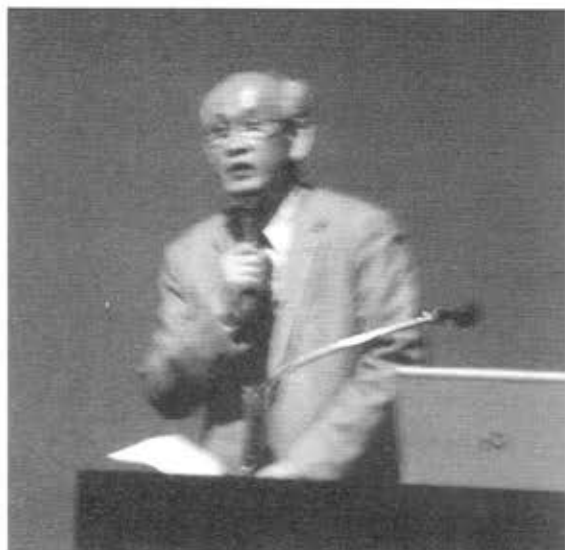
こうして観音の変化である行基と観音札所寺院とは結び付いている。

4 行基伝承寺院の巡拝

行基伝承寺院やその足跡を巡ると、どのような利益があるのか。それについて、平安末期成立の『行基年譜』は参考になる。同書は、天竺(インド)震旦(中国)の仏跡を順拝する者は、無量の

罪を除滅するという。日本ではこれは無理であるが、行基の史跡を順拝することにより、信仰的な世界を追体験することが可能だという。

日本の人々が、行基にこめた「世界」を知ることは、自らの「思い」を再認識する貴重な機会ではないか。そのためにも、なおさらに一地域、一地方、一国にこだわることなく、全国に所在する行基伝承寺院を「巡拝」すべきであろう。



講演会会場受付風景



2013.10.20

編集後記

先輩・森明彦氏の御指名で、伝統ある堺行基の会の末席をけがすこととなってはや一年になろうとしています。その間、ほとんどお手伝いらしいこともせず、バス旅行につれていっていただいたり、楽しませてもらういっぱいうで、お恥ずかしいかぎりです。私は堺の住人ではありませんが、郷土の偉人として会員の皆様の行基さんにたいする熱い想いは私にもひしひしと伝わってきます。微力ではありますが、会員の皆様のその思いを受け止めた研究を、自分も行っていかなばと思うこのごろです。今回、はじめて会報編集のお手伝いをいたしました。まだまだこんなものですが、これからもご鞭撻ください。

(若井敏明)



行基 著